

その281

## クローズアップ21

### 地域が豊かになる、幸せを実感できる仕組みを創る 松山シーサイドカントリークラブ

## SDGs活動の強化、外国人人材の職業紹介事業を開始

都道府県不問で、ゴルフ場業界では深刻な人材不足が続いている。ハウス内業務及びコース管理は、来場者数に関わらず、サービスの提供や施設の維持に多くの人手を要するため、人手不足が顕在化すると、社員の労働負荷が高まり、従業員満足度が低下し、最終的に離職率が上がる恐れがある。

近年では人材不足の打開策として、セルフ&スループレーの導入やハウス内のサービスを限定したり、DX化を推進するコースも増え始めている。

一方で外国人従業員の採用に注目が集まった時期もあったが、色々と就労制限もあり、ゴルフ場業界ではなかなか進んでいないのが現状だ。

今回紹介する松山シーサイドカントリークラブ（18H、愛媛県）の運営会社である西武観光株式会社では、自社で外国人人材を採用した経験を基に、県内の異業種企業にこれらの人材を派遣していく事業を始めた。

その他、同CCでは2021

年7月からSDGs（持続可能な開発目標）宣言を行い、様々な取り組みを実施している。

それらの取り組みを紹介する前に、入場者データについて簡単に触れておきたい。昨年度の入場者数は3万7884人で、男女比は90・8%が男性、9・2%が女性だという。

また、入場者全体の20%はメンバーで80%がビジターとなっている。メンバー数は1230名で平均年齢は67歳、WEB予約は50%以上あるという。ここで入場者の年代別についても触れたい。30歳未満は8・7%、30〜40代は32・2%、50代は23・3%、60代は18・9%、70代以上は16・9%となっており、



松山シーサイドCC藤井伸忠社長

県外からの来場者は全体の1・7%で愛媛県内からの来場が圧倒的に多い。

入場者数の説明も終わったので、同CCの取り組みについて、藤井伸忠社長と藤井より子専務に話を聞いていこう。

## ゴルフ場の運営会社が『外国人人材の職業紹介事業』を開始

冒頭にも触れたように、同CCを運営する西武観光株式会社では、今年から現地の協力機関と提携し、外国人の職業紹介事業を始めた。ゴルフ場（運営会社）がこのような事業に取り組むケースはおそらく日本で初だろう。同社では5月17日に外国人の従業員の採用を検討している企業、個人向けにセミナーを初めて開催した。現在、同CCでは約40名のうち、6名が外国人スタッフだ。

「ゴルフ場は深刻な人手不足で、募集しても高齢者しか集まらない、集まってもすぐに辞めてしまう状態が続いていました。そ

の頃、外国人の雇用が世間では広がってきていました。技能実習生を入れたい、若い外国人スタッフを入れたい」との想いから、あちこち話を聞いてまわったのですが、ゴルフ場勤務がOKなビザがありませんでした。それでも私は諦めることができませんでした。3年かかりましたが、様々な努力が実り、人材派遣の会社を通してウズベキスタン人の男性スタッフ1名の入社に辿り着きました。このスタッフは最難関の日本語能力試験N1を持っており、非常に優れたスタッフでした。この男性スタッフが入社したことがきっかけで、ウズベキスタン大使館とのつながりができまして、22年9月に当コースでウズベキスタン



5月17日のセミナーで想いを込めて話す藤井より子専務

が入社したことがきっかけで、ウズベキスタン大使館とのつながりができまして、22年9月に当コースでウズベキスタン

の魅力を知るイベント」を開催。昨年5月には「第1回ウズベキスタン大使館カップ」を開催しました。どちらもウズベキスタン大使にご参加いただきました。これらの成果から、ますます外国人採用に注力していきたいと強く思いましたし、その後、希望する人材を入れられるようになります。しかし、外国人スタッフはいつの日か母国に帰ります。あるいは条件の良い職場に転職もあり得ます。私が構築したかったのは、スタッフは辞めてもまた新しいスタッフをすぐに来日できるシステムそのものです。これがゴルフ場を守っていくことにつながっていくと



盛況だった第1回のセミナー



同CCで元気に活躍する外国人スタッフたち

考えています。

事業承継を考えた時に一番必要なのはやはり跡継ぎです。そして、次に必要なのは従業員だと思えます。しかし私達、地方の中小企業ではなかなか確保していくのは難しいです。そのため、費用がかさむから諦めるのではなく、受け入れる側も考え方自体を変えていくのも大事だと思っています。地域に貢献できる事業を行っていきけることに喜びを感じていますし、地元で元気がなかったら、やはりゴルフ場経営も厳しくなります」（藤井より子専務取締役）

同CCでは社宅があり、家賃の半額を負担しているという。それだけでなく、通勤に必要な運転免許の取得費用も負担し、生活面のサポートも万全だ。それだけに留まらず、クラブハウスの隣接している空きロッジを改装し、託児所にすることも視野に入れているようだ。

第1回となった5月17日のセミナーでは、同社はウスベキスタン、カンボジア、ベトナム、ネパール、スリランカの5カ国の現地協力機構と提携し、技術・人文知識・国際業務ビザや特定技能ビザ（1号・2号）の外国人採用をサポートすると説明した。技術・人文知識・国際業務ビザの要件は『本人の専門知識技術による』となっており、家族の滞在が可能だ。また、特定技能ビザの要件は12分野の専門職（介護や宿泊業、農業、外食業など）となっており、家族の滞在は不可（特定5年終了後は可能）となっている。

なお、特定技能制度は、国内人材を確保することが困難な状

況にある産業分野において、一定の専門性、技能を有する外国人を受け入れることを目的とする制度で、2019年4月から始まった。

余談だが、第1回のセミナーは『あいテレビ』（愛媛県のTBS系列局）でも報道され、反響も大きく、第2回のセミナーを6月21日に開催するという。

### SDGsに取り組み、様々な取り組みに着手

同CCでは2021年7月に『SDGs宣言』を発表した。『ゴルフで人とのつながりを大切にしよう』という経営理念のもと、事業活動を通じて『持続可能な開発目標』（SDGs）の



2021年7月に『SDGs宣言』を発表

達成に貢献し、地域課題の解決及び、持続可能な社会の実現に努めていく——といち早く四国内のゴルフ場で表明し、注目を集めた。

「取り組むきっかけは、廃プラスチック削減」が日本ゴルフ場支配人会連合会のテーマとしても挙がっていたからです。まずは浴場に備え付けのビニール袋や髭剃り用のカミソリ、プラスチック歯ブラシの廃止から開始しました。

その後、SDGs活動の一環として、ゴルフ場から出たコース樹木の間伐材の有効利用を始めました。コース間をセパレーターする樹木は、大部分がクスノキでレイアウトされていますが、

開場時には小さな苗木であったクスノキも、長年の歳月を経てかなり大きくなっていました。しかし、コース管理を行う上で、芝生の成長や風通しの確保、日照の問題もあり、そのクスノキを間伐、または伐採することが多々ありました。伐採されたクスノキ

クスノキから作った防臭、防虫効果のあるアロマウオーターとコースター



は、産業廃棄物として処分されるのが一般的ですが、当クラブではこの間伐材を有効利用する案を考え始めました。

地元の専門家に意見をいただくだけでなく、私自身も勉強したところ、クスノキから抽出される成分は、昔良く利用されていた樟脳の原料であり、昔から防虫剤として重宝されているこ



コース内の空いているスペースを有効活用し、栽培された原木椎茸も人気のお土産

とを知りました。しかしながら、時代の流れにより、樟脳製造農家は激減し、化学合成されたナフタリン等の製品に置き換わり、やがて無臭防虫剤に変遷してきています。大事な衣服を害虫から守る防虫剤に対し、少なからず体調不良を訴えたりする症状があり、最近はおーガニック自然由来の樟脳防虫が見直されています。

当クラブでは、クスノキから樟脳の製造に成功し、樟脳の販売に着手し、第1弾として、樟脳製造時の副産物として生成されるクスノキアロマウオーターを製造販売しています。このア

ロマウオーターは防虫作用、防臭効果だけでなく、集中力アップ、リラッククス作用といった効果もあります。

またアロマウオーターの他、クスノキ間伐材でコースターも作りました。材料はクスノキ100%ですので、防虫効果があります。アウトドアやキャンプの1アイテムとして好評です。

そもそもこのきっかけは、当クラブの専務が原木椎茸の栽培に関心を持っていました。コース内に大量の樹木がありますし、有効利用して使えるのではないかと当初は思っていました。専門家にご指導いただいたところ、

原木椎茸に適しているのはクスノギということが判明し、当クラブはクスノキだらけで、これは原木椎茸には適さないと判明しました。その背景もあり、クスノキの有効活用を考えたという経緯があります」(藤井社長)

同CCではレストランから出る使用済み天ぷら油は、エコバイオ株式会社へ回収してもらい、植物油由来生分解性チエーンソーオイルにリサイクルしているという。このオイルは同CCの樹木整備に利用しているそうだ。この取り組みにより、愛媛県内の土壌、河川、海洋汚染防止に貢献しているそうだ。

### も 海外からのゴルファー対応

愛媛県内には松山空港があるが、現在はソウル便(毎日)、釜山便(週3)、台北便(週2回)が運航されている(上海便は運休中)。その影響もあり、同CCには韓国人ゴルファーの来場も見られるという。

「昨年は韓国人のお客様が10



独自に作成した韓国語のマナーブック

00人程度でしたが、今年(1~4月)は既に1000人以上にお越しいただいています。当クラブは韓国の大手旅行会社2社と連携しています。独自で韓国語のマナーブックを作成し、配布しています。その他、チエックインしやすいよう専用のテابلルを設けたり、クラブハウス内の展示などでマナー啓蒙を行い、気持ちよくプレーしていただいています」(藤井社長)

ゴルフ場の新たな可能性を追求し、ゴルフ場だけではなく、地域が、人々の暮らしが豊かになる、幸せを実感できる仕組みを創り、創造的思考を持つ同CCの動向に今後も注目していきたい。